別紙

平成２０年度　森プロ事業実績：可茂南部100年の森づくりプロジェクト（都市近郊林業）

（平成21年3月末現在）

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		―	78	78	100%		283
作業道(m)		―	3,700	2,550	69%	作業路含む	25,000
間伐等	面積(ha)	―	39	10	26%	利用＋切捨	221
	材積(m3)	―	1,116	650	58%		5,246
備考							

H20年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)　　0 円／m3

施業集約化の状況

・20年度実施予定の所有者100名を対象とした説明会を2回開催したほか、地区座談会等で呼びかけた結果、ほぼ全員から了解が得られ、95名の10年間の長期受委託契約の締結ができた。作業路開設及び間伐の委託は個別に進めている。

図－1　説明会開催状

図－2　説明会開催状

施業プランの活用状況

・未活用で作成中

施業プランナーの養成状況

・施業プランナー1名

作業道の状況

・木材運搬の基盤となる作業道を主に開設し、来年度も継続実施する。
・設計･管理･先行伐採･開設は森林組合で実施した。
・作業道、作業路の開設経験がないため作業実施当初は、各工程の調整がとれず苦労したが、作業を重ねるごとに少しずつ改善した。

図－3　作業路開設状況

図－4　作業路開設状況
（丸太組工法）

図－5　作業路完成状況

作業システムの状況

・当初の計画どおり、作業路より20メートル以内の木材のみを搬出し、グラップル（集材）→チェンソー（玉切造材）→グラップル（積込）→フォワーダ（運搬）→グラップル（積込）→トラックの作業システムで実施した。

・森林研究所と設置したモデル林において列状間伐や強度間伐を実施した。

図－6　集材状況

図－7　集材状況

図－8　集材状況

その他

・未間伐林から木材生産林転換に向けたモデル林の調査・研究の継続
（岐阜県森林研究所による支援）

・林地残材破砕実験業務

図－9　モデル林調査状況

図－10　林地残材破砕実験状

森プロの成果

・各研修に参加することで、他の組織の作業路や作業道の技術を見ることで学習できた。
・人工林と天然林という区分でなく、流域的な森林管理の提案を実施することができた。
・研修会で得た技術を実践することで、技術が向上した。
・切捨間伐から搬出間伐への第1歩が踏み出せた。
・管内各市町に対して将来の森林施業のモデルとして宣伝している。

今後の課題

・日報の整理方法と作業コストの算出（低コスト木材生産に向けて）
・利用間伐と作業路開設の技術の向上（木材生産増加に向けて）
・各役割分担の明確化（施業集約化面積と森林整備面積の増加に向けて）
・搬出された木材の流通経路確保（未間伐森林からの小径木流通拡大に向けて）